

## 今年度最終回の巻頭によせて

仲嶺 真弓

出勤時、職員駐車場から保育園までの歩道を歩きながらふと見上げると、園庭沿いの桜の木の枝にたくさんの花芽が膨らんでいました。まだひんやりとした2月の朝の青空とリンクした花芽が、花咲く春を心待ちにしているようでした。その光景が、今日もいい日にするぞ！と凛とした気持ちにさせてくれました。今年ももう3月。早くもそう組の子どもたちが卒園を迎える季節となりました。保護者の中には、子どもたちの保育園送迎生活が終わる方もいます。心からお疲れ様でしたと声をかけたいです。でも、子育てはまだ続きます。法人の理念は「人としての育ちを保障し、地域の子育てをとおして大人（職員・保護者）も育ち合える保育園を、園と家族とで共につくっていくこと」この理念は、卒園した子ども、保護者にも繋がっています。卒園しても語り合える場はここにもあります。何かのときには思い出してください。保育園で紡いだ糸をそのまま引き続き共に紡いでいければと思います。卒園しても、子どもの育ちを見守りながらこのくまのりの地域を育む仲間として、これからもよろしく願います。

思い起こせば、園長に就任して9回目のつばさ子年度最終回の巻頭となりました。就任したての2014年度をつばさ子の巻頭を読み返してみました。下記の文章は就任初年度の文章の一部です。

「昨年の4月に園長という役割を引き継ぎ、やっと、やっと1年目の終わりを迎えようとしています。つばさ共同保育園が開園して3年目の2014年度は、姉妹園のアトム共同保育園園舎建て替えもあり、いつもとは違うスタートとなり、保護者の方を戸惑わせてしまったことも多かったと思います。

毎日毎日、子どもたちが怪我もなく今日一日、元気に過ごせますようにと事務室で願いながら書類とらめっこ。性に合わない事務仕事も少しは板についてきたかと思えます。送迎時には疲れきった顔をした保護者はいないかと、事務仕事をしながらテラスを歩き交う姿を見て、私たち職員は子育てパートナーとしてサポートできているかと考えます。そして勤務を終えて事務室に入ってくる職員の顔色を見て何気ない会話を交わしながら、心身ともに無理のある働き方になっていないかと自分の目と耳で確かめます。私にできることはしれているけれど、そうやって園全体を見渡し、今必要なことは何かを考え続けることが園長としての一番大事な役割であることに、今更ながら気付かされます。“子ども・保護者・職員が、心身共に元気に毎日を過ごせること”。ただそれだけのことが、どんなに尊く、幸せなことであるのかに気付けた今、そのことに感謝しつつ、電子機器だけのやりとりには偏らない、生の声での対話を大切にしながら、人と人との繋がりを紡いでいきたい。そんな思いが強く込み上げてきた園長1年目の終わりです。

この1年、新米園長をはじめ職員を温かく見守り、時には厳しく意見しながら、この保育園がただ単に保育を利用する側、提供する側という関係だけでない、互いにとって居心地の良い居場所作りをしていきたいです。」

就任1年目に抱いた思いは、9年経った今も同じように根底にあります。園内のことにプラスして保育園が地域とどう繋がっていくかも考え続けてきました。地域住民の方との繋がりも、大人のあたたかい見守りの中で子どもたちが安心して心地よく過ごせる地域でありたいという思いが根底にあります。だからこそ、地域住民の方からの意見は、未来に続く意見になると捉え、必要なことは保護者にも発信してきました。いつもあたたかく見守って下さっている地域の方に感謝しつつ、子どもたちのためにこれからもその関係が続きますようにと願います。各家庭、日々仕事、家事をしながらの保育園への送迎は大変と思いますが、時々でいいので地域住民の方の見守りがあつての保育園であることを思い出してほしいと思います。

つばさが丘地域の状況はこの9年で、少しずつ変化してきていることを感じます。つばさ共同保育園がこの地域に開園したコロナ禍以前は、地域の民生委員や福祉委員、子ども会の方がその当時の保護者を通じて、保育園に連絡が入り、委員として何かできる事はないですかと相談にいられていました。依頼を受け委員の方と対話しながら保育園にできる協力をし、地域で家庭育児している人とも少しずつ繋がってきたという手ごたえを感じてきた矢先に、コロナ禍に突入。それまで重ねてきた関りが全てストップする事態に残念な思いを隠せませんでした。昨年度地域の子ども会を閉じるということを知り、ますます子育ての状況が閉鎖的になってきていると感じました。今年度、家庭育児している家庭が孤立しないようにとスタートさせた“フリースペースひだまり（毎週水曜日ふれあいルームでしています）”は、月日が経つごとに参加家庭が増えていきます。その状況に、やはり繋がれる遊び場が必要とされていることを実感しました。昨年度からは長生会の方の依頼で、5歳児が歩道の花壇と一緒に花を植え、交流してくれました。年度後半には毎年町民まつりで手話ダンスを披露してくれている“手話ダンス スプリング”の方が4・5歳児に手話ダンスを教えてくれ、言葉以外にも気持ちを伝える方法があることを知る機会をもらえ、来年度以降も引き続き来てくれることになっています。

いろいろあった2022年度ですが、桜の花芽のように、今までの努力が再び膨らみだしたことを感じます。保育園が単に保育を利用する側、提供する側という関係だけでない互いにとって居心地の良い場になるためのステップをまた1つ踏めていることに、2022年度最終回の巻頭を書きながら気付きました。花咲く春はもうそこまで来ています。暖かい日差しを感じながら、3月を楽しみたいと思います。

※子どもたちの午睡の見守りと、園内掃除のため、短時間勤務していたパート職員の〇〇〇〇さんが3月末日で退職することになりました。2017年から6年間、子どもたちのために力をそそいでくれたことに感謝します。お疲れさまでした。

